

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成 29 年度 兵庫県農業気象技術情報第 8 号 (1 ~ 2 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育 土づくり肥料 (資材) 及び有機物などを施用して土づくりに努める。堆肥は秋冬に投入した方が、次年度の地力窒素として効果的である。 秋すきをしていないほ場では、早急に耕うんし、稲わら・大豆殻等の腐熟を促進する。</p> <p>2 病虫害 カメムシ類、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ等の越冬密度を少なくするため、あぜ草の管理に努める。 イネ縞葉枯病 (媒介虫 : ヒメトビウンカ) については平成 29 年 12 月 26 日付「病虫害発生予察技術情報第 1 号 イネ縞葉枯病の防除対策について」を参照のこと。</p>	
麦	全 県 共 通	<p>1 生育 (1) 気温が低いため、生育は遅れている。幼穂形成はやや遅れる可能性がある。</p> <p>(2) 播種が遅れたところでは、茎数不足が懸念される。</p>	<p>1 生育 (1) 麦踏みは、ほ場が乾燥している時に、節間伸長期までに数回行い、分けつの促進と凍害防止を図る。 ほ場が湿った状態で麦踏みすると、トラクターの車輪跡が残り、かえって湿害を助長する。 排水溝は、水が溜まらないように手直しを確実にし、常に排水口に水が流れるようにする。</p> <p>(2) 茎数不足を補うために、通常の施肥に加え、つなぎ肥として 1 月中に窒素 1 ~ 2kg / 10a を施用する。</p>
キャベツ	全 県 共 通	<p>1 生育 11 月下旬以降、低温、乾燥が続いているため、球肥大不足や遅れが心配される。</p> <p>2 鳥獣害 1 ~ 3 月は、ヒヨドリ等の食害が多くなる。</p>	<p>1 生育 用水のとれる地域では畝間灌水の実施により、生育を促進する。結球期以降は、凍霜害を受けやすいため、収穫遅れに注意する。</p> <p>2 鳥獣害 食害が予想される場合は、ネット等により鳥害対策を行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹	全県共通	<p>1 生育 凍寒害や雪害の発生防止に努める。</p> <p>2 病害虫 越冬病害虫の密度を下げる。</p>	<p>1 生育 敷きわらや伸びた草等は、果樹園内の気温を下げるので、敷きわらは霜害危険期を過ぎてから行う。 クリ、ブドウ、モモ等において、耐寒性の劣る幼木のせん定は、厳寒期を過ぎてから行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリ：春先の低温被害の対策として、幼木への株ゆるめ処理等を行う（特に水田転換園は留意する）。 ・イチジク：稲わら、アルミ蒸着フィルムの被覆を行う。 ・青ナシ：粗せん定を実施し、棚上の積雪を少なくする。また、棚の点検を行い、不良箇所を補修するとともに、必要に応じて中柱を追加する。 ・カンキツ類：耐寒性の劣る幼木や品種、未収穫樹に、不織布やこもで樹全体の被覆を行う。 <p>2 病害虫 病害虫の被害果、枝及び落葉は、焼却あるいは園内からの持ち出しを行う。またマシン油乳剤や石灰硫黄合剤による薬剤防除とともに、粗皮削り等、耕種的な対策を組み合わせ、越冬病害虫の密度を下げる。</p>

◎水稲・麦の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
※本情報は、12月26日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（12月23日～1月22日）

[平成29年12月21日 大阪管区気象台発表]

【概要】

近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

【確率】

○気温、降水量、日照時間及び降雪量

【近畿地方】

■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

(単位:%)

気温

降水(日本海側)

降水(太平洋側)

日照(日本海側)

日照(太平洋側)

降雪量(日本海側)

気温	40	40	20
降水(日本海側)	20	40	40
降水(太平洋側)	40	40	20
日照(日本海側)	40	40	20
日照(太平洋側)	20	40	40
降雪量(日本海側)	20	40	40

○各週の気温経過

【近畿地方】

■低い ■平年並 ■高い

(単位:%)

1週目

2週目

3～4週目

1週目	30	50	20
2週目	40	40	20
3～4週目	40	40	20

(2) 近畿地方の向こう3か月予報（1月～3月）

[平成29年12月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】

この期間の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で少ない確率50%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

1月：近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

2月：近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

3月：近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わります。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

【確率】

○気温 【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)

3か月	低い	平年並	高い
3か月	40	30	30
1月	40	40	20
2月	30	40	30
3月	30	40	30

○降水量 【近畿日本海側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	少ない	平年並	多い
3か月	20	40	40
1月	20	40	40
2月	20	40	40
3月	40	30	30

【近畿太平洋側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	少ない	平年並	多い
3か月	50	30	20
1月	40	40	20
2月	40	40	20
3月	40	40	20

○降雪量 【近畿日本海側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	少ない	平年並	多い
3か月	20	40	40

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1981～2010年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病虫害発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
※「病虫害発生予察技術情報第1号イネ縮葉枯病の防除対策について」はH30年1月4日以降に掲載されます。
- ・「病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線 4074
農産班: 野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL: http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)